

第1学年 生活科学習指導案

12

つくる責任
つかう責任

15

陸の豊かさも
守ろう

令和5年11月22日(水)第5校時
 場所 1学年 各教室
 児童数 80名
 指導者 教諭 1組
 教諭 2組
 教諭 3組

1 単元名 「たのしい あき いっぱい」→【国語マイナス5 生活プラス5】

2 単元について

(1) 児童の実態

本学年の児童は、明るく活動的で生活の授業で行う活動が好きである。あさがおの水やりも、毎日、楽しそうに行っていた。しかし、それを絵日記に記録していく時には、じっくりと観察したり、前回の様子と比較したりすることができずに、簡単な絵と一、二文で終わりにしてしまう児童もいて、その都度、会話の中から児童の「気付き」を引き出せるように助言してきた。2学期には児童自ら、「まだ、花が咲いているから水をやってくる。」と世話を続ける児童の姿も見られた。10月上旬に、あさがおのリースを作るため、ほぼ、枯れている茎を土から切り離れた時、「先生、ぼく、涙が出たよ。」と言いに来た児童もいた。

1,2学期に行った「わたしの木・ぼくの木」や「むしムシ調査隊」は、児童が身近な自然に興味をもつ様子が見られた。自分のお気に入りの木の変化に気付くだけでなく、自分の木に鳥が止まっているのを見つけた児童が教室に伝えに来ると、「どんな鳥?」「写真に撮りたい。」と多くの児童が、校庭に様子を見に行っていた。また、虫が苦手で、1回目の虫の観察の時には、遠くから観察をしていた児童が、友達の虫の話に興味を示すようになり、9月には、児童の中にいって、一緒に虫を観察することができるようになった。

「次の生活は、何をするのかな。」と楽しみにする児童が増えたが、自分の気付きを友達に伝えることができずに、授業後、教師に言いに来て、友達の真似をしながら、同じような活動を楽しむ児童もいる。

(2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

本単元は、学習指導要領の内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに関心とともに、それらを取り入れ、自分の生活を楽しくしようとする。」(6)「身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫して作ることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を受けて設定したものである。

児童は、入学してから、学校全体の取り組みとして、SDGsについて学び、生活科の学習で、学校の敷地には、いろんな植物や生き物がいることを知り、身近な自然についての気付きを深めている。

本単元では、児童が、季節の変化や自然の不思議さに気付く活動を進めながら、「SDGs キッズのあきまつり」と題して、あさがおの花やつるで遊んだように、身近な自然の物や身近な物を利用して、みんなで遊ぶものを創る活動を行う。最終的には、交流のある保育園児を招いて、保育園児も楽しめる秋祭りを開催することを児童のめあてとすることで、自分だけが楽しむのではなく、友達や園児も含めて、みんなが楽しめるには、どんな工夫が必要かを話し合うことが必要となる。「考える、作ってみる、試す、話し合う。」というサイクルを繰り返すことで、体験活動と表現活動の相互が作用する活動が生まれると考え、伝え合い交流する場の工夫、振り返って試してみる時間を確保する単元構成を考えた。

教師は、できるだけ、児童の気付きを支援する姿勢を取り、結果ではなく、粘り強く取り組む様子や評価したい。それが、児童の活動の楽しさや満足感を生み、それらを積み重ねることが、自己肯定感や探究心につながると考えている。

(3) 児童の意識の流れ

小単元(時数)

児童の意識

ねらいに迫る手立て

①あきのたからものをみつけよう(6)

・はっぱの色が変わったね。
・公園にどんぐりが落ちてたよ。
・どんぐりであそぼうよ。

事前に、学校や公園の自然がどんな様子か、どんな自然物が見つけられるかを下見しておく。

②あきのたからものであそぼう(6)

・赤い葉っぱで何か作りたい。
・どんぐりでこまがつくれるよ。
・松ぼっくりってボールみたい。

秋の自然物で遊ぶ意欲を高めるために、見つけた秋のたからものを整理し、展示する場を設ける。

③あきのおすすめをつたえよう(3)

・秋のたからものを教えたいな。
・赤い葉っぱの飾りができたよ。
・この遊びを紹介したいな。

タブレットを活用し、友達の喜びや気づきに共感できる機会や場を設ける。

④みんながたのしめるあきのおもちゃやあそびをつくろう(7)

・よく回るどんぐりごまをつくって、みんなを楽しませよう。
・保育園の子もできる遊びにしよう。

グループで活動することで、互いの共通点や相違点に気付いたり、アドバイスし合うことができるようにする。

⑤ほいくえんの子どもたちをまねてあきまつりをしよう(4)

・ぼくたちの秋のたからものを見せてあげよう。
・一緒に秋のおもちゃで遊べるように、工夫したよ。

保育園の園児と一緒に、秋の遊びで楽しむという目的意識をもたせる。

3 単元の目標

秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の特徴や違いを見付けることで、四季の変化に気付くことができ、身近な自然や身の回りの物を取り入れて、遊びや遊びに使うものを工夫して創ったり遊んだりすることで、自分達の生活を楽しくしようとするができるようにする。



4 単元の指導計画・評価計画(26時扱い)

(1) 単元の観点別評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準	<p>○秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに、気付いている。</p> <p>○秋の自然や、身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、その面白さや自然の不思議さに気付いている。</p>	<p>○秋の自然と関わる活動を通して、夏の自然の違いや特徴を見付けている。</p> <p>○秋の自然を利用したり、身近にある物を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。</p>	<p>○秋の自然を見付けたり、秋の自然の物を利用して遊んだりする活動を通して、自分の生活を楽しくしようとしている。</p> <p>○秋の自然や身近にある物を使って、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。</p>
小 単 元 に お け る 評 価 基 準	1	①秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに、気付いている。	①秋の自然と関わる活動を通して、秋の自然物を探そうとしている。
	2		②秋の自然と関わりたいという思いをもち、秋の自然を生かした遊びを楽しもうとしている。
	3	②季節によって、楽しめる遊びが変わるなど、季節によって生活の様子が変わることに気付いている。	③秋のたからものや秋の遊びを伝えることで、これからも季節の遊びを楽しもうとしている。
	4	③遊びのルールを工夫することで、遊びが楽しくなることに気付いている。	④自分で遊びを創り出す楽しさを実感し、より良いものを創り出そうとしている。
	5	④自分が遊びを創り出したことで、みんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。 ⑤みんなが創った遊びをする際に、遊びのルールを守っている。	⑤自分達で、遊びを創り出す面白さを実感し、みんなで楽しもうとしている。

(2) 単元の指導計画

小単元名 (時数)	○主な学習活動 小単元の目標	小単元の評価 基準との関連	評価基準から想定した具体的な子 どもの姿(評価方法)
あきのたからもの をみつけよう (6)	<p>○校庭や公園で、秋のたからものを見つけよう。</p> <p>身近な自然の様子を観察したり、自然物を利用して遊んだりしながら、身近な自然の様子が、夏から秋に変化していることに気付くことができるようにする。</p>	知・技① 思・判・表 態①	<ul style="list-style-type: none"> 自分が見つけた葉や木の実などの自然物や、夏にはなかった秋の自然の特徴について、友達に話したり、記録カードに書いたりしている。 (行動観察・発言・作品) 日常生活の中で気付いた自然の変化や特徴について、話している。 (行動観察・発言) 校庭や公園で、秋の特徴や自然物を探そうとしている。 (行動観察)
あきのたからもの のであそぼう (6)	<p>○秋の自然の中で遊んだり、葉や木の実などの自然物を使った遊びを工夫したり、簡単なおもちゃを作ったりする。</p> <p>秋の自然物を手に取りながら、どんな遊びになりそうかを想像し、試行錯誤しながら、秋の自然を生かした遊びを楽しむことができるようにする。</p>	思・判・表② 態②	<ul style="list-style-type: none"> 自分がしたい遊びについて話しながら、集めた自然物から使うものを選んでいく。 (行動観察・発言) いろいろな種類の自然物を試したり、友達と相談したりしながら、秋の自然物を使って、遊びやおもちゃをつくっている。 (行動観察・作品)
あきのおすす めをつたえよう (3)	<p>○自分のお気に入りの木の様子や、見つけた秋の宝物について振り返り、紹介し合う。</p> <p>秋の自然と関わったことを振り返り、自分が見つけた秋の様子や自然の物、秋の遊びなどを友達に伝え、みんなで、秋を楽しむことができるようにする。</p>	知・技② 態③	<ul style="list-style-type: none"> 秋になると見られるものや秋にできる遊びに気付いて、話している。 (発言・作品) 自分の秋のお勧めを伝えることができ、友達の発表を、興味をもって聞いている。 (行動観察・発言)
みんながたの しめる あきの おもちゃやあそ びをつくろう (7) 本時(5/7)	<p>○集めた様々な秋の自然物や、身の回りの物の中から、材料を選び、みんなが楽しめるおもちゃやあそびをつくる。</p> <p>集めた様々な秋の自然物や、身の回りの物の中から、材料を選び、みんなが楽しめるおもちゃや遊びを創り出すことができるようにする。</p>	知・技③ 思・判・表③ 態④	<ul style="list-style-type: none"> みんなが楽しめるような遊びのルールをつくっている。 (発言・作品) 秋の自然物や、身の回りにあるものから選んで自分のおもちゃや遊びをつくっている。 (行動観察・作品) 様々な自然物や身の回りの物を試しながら、遊びを創ろうとしている。 (行動観察・作品)
ほいくえん の子どもたちを まねいて、あき まつりをしよう (4)	<p>○秋祭りに園児を招いて、園児が楽しめるように工夫したおもちゃや遊びを使って一緒に遊ぶ。</p> <p>園児の気持ちを想像しながら、自分達でつくったおもちゃや遊びで、一緒に楽しむことができるようにする。</p>	知・技④⑤ 態⑤	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが創った遊びで、園児が楽しく遊んでいる喜びを友達に話したり、記録カードに書いたりしている。 (行動観察・発言・作品) 自分たちでつくったルールを守って、園児と一緒に遊んでいる。 (行動観察) 自分達でつくった遊びで、園児と一緒に楽しんでいる。 (行動観察)

5 本校の研修との関連

研究主題

未来を創る「探究心」のある児童の育成～カリキュラムマネジメントを通した「SDGs」の探究

目指す児童像

- ①自ら課題を発見し、課題解決に向けた粘り強い探究活動を通して、自分の考えを発信することができる児童(たくましい子)
- ②『誰一人取り残さない心』で、協同的な学びをして、自分も他人も大切にできる児童(心豊かな子)

研究仮設①

「探究的な学習」の学習方法を確立し、適切な「学習環境」があれば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> 秋の自然物の展示や保管

- あさがおのつるで作った児童の作品を展示しておくことで、リースを作った時の喜びや達成感を思い起こせるようにする。
- 「秋のたからもの」で、児童が見つけた物を分類・保管し、自由に使えるようにすることで、遊びやおもちゃを作るために試行錯誤をする材料とする。

<手立て②> 試行錯誤するための時間と場の確保

- おもちゃや遊びを考え、つくり、試し、話し合っ、更に工夫していくための活動時間と場所を設定する。

<手立て③> グループ活動

- 単元の後半を同じような遊びのグループで活動することにより、一人では、活動が止まってしまうような児童も、互いの共通点や相違点を見付けながら、アドバイスをし合っ、より良いものをつくろうという意欲につなげる。

研究仮設②

「SDGs」の探究を通して、自分たちに何ができるかを考える学習を行えば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> 使用する材料について話し合う

- 秋の自然物の他に、使用する材料について、話し合う機会を設け、おもちゃや遊びをつくるために必要だと思うものと、SDGsで学んだことから、自分たちの身の回りの物から集めておくものを決めておく。

<手立て②> 保育園との交流活動

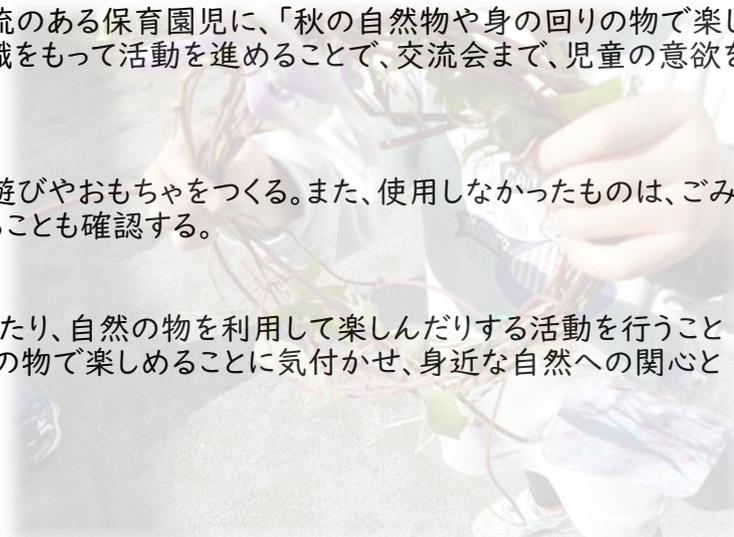
- 自分たちだけが楽しむのではなく、交流のある保育園児に、「秋の自然物や身の回りの物で楽しく遊べることを伝える。」という目的意識をもって活動を進めることで、交流会まで、児童の意欲を継続させる。

【 SDGs12 :つくる責任 つかう責任 】

身の回りにあるものを再利用して、遊びやおもちゃをつくる。また、使用しなかったものは、ごみとして捨てるのではなく、リサイクルすることも確認する。

【 SDGs15 :陸の豊かさを守ろう 】

直接、自然と触れ合う体験を増やしたり、自然の物を利用して楽しんだりする活動を行うことで、植物や虫にも命があることや自然の物で楽しめることに気付かせ、身近な自然への関心と愛情を育てる。



6 本時の学習指導(19/26時)

(1) 目標 秋の自然物や身の回りの物を利用して、保育園児も一緒に楽しく遊べるように工夫し、秋のおもちゃや遊びを創り出している。

(2) 展開

児童の活動 ・児童の意識	●評価規準【観点】(方法) ○支援	時間
<p>1 本時の活動を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「SDGsキッズのあきまつり」のじゅんびをしよう。 ～ すてるから、つくるへ～</p> </div> <p>・どんぐりごま・さかなつり ・秋のがつき・松ぼっくりいれ ・まとあて・けんだま など</p>	<p>○活動の見通しが持てるように、グループ毎に、今日の活動を発表させる。 ○【すてるから、つくるへ】を確認し、「保育園児に、自然や身の回りにあるもので遊ぶ楽しさを伝えよう。」というめあてがあることを意識させる。</p>	6分
<p>2 グループ毎に遊びの内容を工夫する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><遊びの改良の視点> 秋の楽器作り…①中のどんぐりの数を変えてみる。②容器の質を変えてみる。 まとあて…①とばす玉を変えてみる。②的の大きさを変えてみる。</p> </div> <p><ルールの改良の視点> ・こまは、ただ回すだけではなく、対戦にしたらどうかな。 ・音楽は、保育園の子も知っていて、歌える曲がいいかな。 ・的に、もっと簡単に入るようにしたらどうかな。</p>	<p>●みんなが楽しく遊べるように考えて、遊びを工夫している。 【思・判・表】(行動観察・作品分析) ・B規準に達した児童への手立て 保育園児がわかりやすいように、更に、工夫・改善できるところはないか考えるように促す。 ・B規準に達していない児童への手立て 活動が滞っている原因を一緒に考え、グループの児童に伝えることで、協力しながら活動していけるように促す。</p>	34分
<p>3 今日できたことと、次の時間にやることを発表する。</p>	<p>次回やることを確認させて、見通しをもつようにさせる。</p>	
<p>4 本時の活動を振り返る。</p>	<p>○本時に、自分がかんばったこと、工夫したことなどを振り返り、発表させる。</p>	5分

(3) 備考

環境構成図

グループの遊びのイメージ図

材料・用具など

児童席

児童席

児童席

児童席

児童席

児童席

試しのスペース

*用具コーナーには、前時の計画の話し合いをもとに、SDGsを意識して考えた必要なものを用意し、児童が自由に使えるようにする。

*教室を移動する際は、一方通行とする。

第2学年 生活科学習指導案

12 つくる責任
つかう責任



17 パートナシップで
目標を達成しよう



令和5年11月22日(水)第5校時

場 所 2学年 各教室

児童数 94名

指導者 教諭 1組

教諭 2組

教諭 3組

2
年
生

2
年
生

1 単元名「うごく うごく わたしのおもちゃ」

(18時間)→授業時数弾力化(国語 -6時間→生活 +6時間)

2 単元について

(1)児童の実態

本学年の児童は、鬼ごっこやボール遊びや虫採りなど、外に行って活動をするを好む児童が多い。図画工作では、粘土を使って造形活動をしたり、絵の具を使って色水遊びをしたりする活動にも意欲的に取り組んできた。また、1年生の生活科「秋祭り」の学習では、身近な自然物や身の回りにあるものを使っておもちゃを作る活動をしてきている。しかし、動く仕組みのあるおもちゃを作って遊ぶという経験をしている児童はそれほど多くはない。

朝会等でのSDGsの話を知ったり、エコキャップの取り組みに参加したり、リサイクルへの意識も少しずつ高まってきている。そして、1学期に行った1年生との学校探検では、上級生として1年生に学校を案内できたことに喜びを感じた児童も多い。本単元では、リサイクルを意識しながら、動くおもちゃを自分で試行錯誤しながら作ったり、保育園児を楽しませるためにどうするか考えたり、前向きに取り組んでいけると考えられる。

(2)単元設定の趣旨と構成上の配慮

本単元は、学習指導内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ることができ、その面白さや自然の不思議さに気づくとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」及び学習指導内容(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが伝わるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。」を受けて設定したものである。

本単元では、まずは身近にある物から材料を見つけ、素材の特徴を生かして組み合わせたり加工したりしながらおもちゃづくりをしていく。そして、「おもちゃフェスティバル」では、近隣の保育園児(あおぞら保育園)を招待し、自分たちだけが楽しむだけでなく、招待する保育園児も楽しめるようにするという目的意識をもたせ、遊び方を工夫したり、ルールを決めたりする活動を行っていく。

(3) 児童の意識の流れ

小単元(時数)

児童の意識

ねらいに迫る手立て

①つくりたいおもちゃをきめよう(1)

よく跳ぶおもちゃをつくりたいな。

作品用の材料集めを保護者に依頼しておく。

②うごくおもちゃをつくろう(5)

高く跳ぶときと跳ばないときがあるな。

競争したり一緒に遊んだり、自然に友だちと比べられる場所を確保する。

③もっとよくうごくおもちゃにしよう(5)

何を変えたらいいかな。

「つくる」「試す」ができる場を設ける。

④あそび方をくふうしよう(7)

あそび方やルールを工夫したら、もっと面白くなったよ。

遊ぶ活動を誰と行うのかを事前に伝え、相手が楽しめるかという目的意識をもたせる。

3 単元の目標

身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、よりよく動くように改良したり、もっと楽しくなるように遊び方やルールを変えたりなどの工夫をし、遊びの面白さや自然の不思議さに気づくとともに、みんなで楽しみながら遊びを作りだそうとすることができるようにする。



4 単元の指導計画・評価計画(18時間)

(1) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
単元の評価基準	○身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、遊びやおもちゃをつくる面白さや、自然の不思議さに気づいている。	○身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、おもちゃがよりよく動くように改良したり、もっと楽しくなるように遊び方を変えたりなど、工夫しておもちゃをつくっている。	○身近にあるものを使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとしている。	
小単元における評価基準	1	①楽しみたい遊びを思い描きながら、つくるおもちゃを決めている。		
	2	①材料やつくり方を変えることで、おもちゃの動きが変わることに気づいている。 ②安全に配慮しながら必要な道具を適切に使っている。	②実際に試したり比べたりしながら、おもちゃの動きを予想し、使う材料を選んでいる。	
	3	③自分がおもちゃに加えた工夫と、おもちゃの動きとの間には、一定の関係性があることに気づいている。	③友達のおもちゃと比べたり競争したりしながら、おもちゃの動きを予測し、おもちゃを改良している。	①自分のおもちゃをもっとよく動かしたいという思いをもち、繰り返しおもちゃを改良しようとしている。
	4	④自分がルールや遊び方を工夫したことで、みんなで楽しく遊ぶことができるようになったことに気づいている。	④さまざまな遊び方を試しながら、みんなでより楽しく遊べるように、遊び方を改良している。	②身近なものを使ってみんなと遊びを創り出すことの面白さを実感し、これからは友だちと一緒に遊びを創り出そうとしている。

2年生

2年生

(2) 単元の指導計画

小単元名 (時数)	○主な学習活動 小単元の目標	小単元の評価 基準との関連	評価基準から想定した具体的 な子どもの姿(評価方法)
つくりたいおも ちゃをきめよう (1)	○見本のおもちゃで遊び、自分の つくりたいおもちゃを決める。 見本のおもちゃを動かして遊 ぶ中で、自分が楽しみたい遊 びを思い描きながらつくるお もちゃを決め、これからのおも ちゃづくりへの思いを高める ことができるようにする。	思・判・表①	・見本のおもちゃで何度も遊びな がら、動きやつくり方について友 達と話している。(発言・行動観 察)
うごくおもちゃ をつくろう (5)	○見本のおもちゃや教科書、図鑑 などを参考にして、おもちゃに 必要な材料や道具を用意して、 自分のおもちゃをつくる。 おもちゃの動きを予想して使う 材料を選び、安全に配慮しなが ら必要な道具を使っておもちゃ をつくる中で、つくり方や材料を 変えるとおもちゃの動きが変わ ることに気づくことができるよ うにする。	知・技① 知・技② 思・判・表②	・いろいろな材料やつくり方を試し、 その動きの特徴を友達と話しな がら、おもちゃをつくっている。(発 言・行動観察) ・材料やつくり方によって、おもちゃ の動きが変わることについて友達 と話したり、記録カードにかいたり している。(発言・作品)
もっとよくうごく おもちゃにしよう (5)	○自分がつくったおもちゃでほか のグループの友達と遊び、気づ いたことを話し合う。 ○おもちゃを工夫して改良しなが ら遊び、よりよく動くように、グ ループで話し合ったり試して遊 んだりする。 おもちゃをもっとよく動かしたい という思いをもち、友達と比べなが ら動きを予測しておもちゃを改良 する中で、自分が加えた工夫と おもちゃの動きとの間に関係性 があることに気づき、繰り返し改 良しようとすることができるよ うにする。	知・技③ 思・判・表③ 態①	・友達のつくったおもちゃのように 動かしたいという思いを話しなが ら、どこをどのように変えたらよ いかにについて、カードにかいて いる。(発言・作品) ・友達のおもちゃとの動きやつくり 方、材料を比べながら、自分の おもちゃを繰り返しつくり直して いる。(行動観察) ・自分が加えた工夫とおもちゃの 動きとの関係について話している。 (発言)
あそび方をく ふうしよう (7) 本時(5/7)	○みんなで楽しく遊ぶ活動につ いて話し合う。 ○みんなで遊ぶ活動に向けて準 備をする、 ○みんなで楽しく遊びながら、お もちゃを改良したり、遊び方を 工夫したりする。 ○これまでの学習活動を振り返 り、記録カードにかく。 さまざまな遊び方を試しながら、 みんなでより楽しく遊べるよ うに遊び方を改良する中で、ル ールや遊び方を工夫するとみん なが楽しく遊べるようになるこ とに気づき、これからも遊びを創 り出そうとすることができるよ うにする。	知・技④ 思・判・表④ 態② 知・技④⑤ 態⑤	・点数をつけたりスタート位置を変 えたりなど遊び方を工夫したこと で、お客さんが楽しんでくれたこ とについて友達と話したりカード をかいたりしている。(発言・作品) ・友達と一緒に試して遊びながら、 遊び方のよい点や改良点を相談 し合ったり、カードにかいたりし ている。 ・身近なものを使ってみんなで遊 ぶことの楽しさを感じ、もっとや ってみたいという思いを伝え合 たり、カードにかいたりしている。 (行動観察・作品分析)

5 本校の研修との関連

研究主題

未来を創る「探究心」のある児童の育成～カリキュラムマネジメントを通じた「SDGs」の探究

目指す児童像

- ①自ら課題を発見し、課題解決に向けた粘り強い探究活動を通して、自分の考えを発信することができる児童(たくましい子)
- ②『誰一人取り残さない心』で、協同的な学びをして、自分も他人も大切にできる児童(心豊かな子)

研究仮設①

「探究的な学習」の学習方法を確立し、適切な「学習環境」があれば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> リサイクル材料コーナーの活用

○児童が用意した道具をリサイクル材料コーナーに集めることで、自由におもちゃを改良するために使用したり、新たなおもちゃづくりを自由に行ったり、工夫しながら活動ができるようにした。

<手だて②> 試行錯誤する場と時間の確保

○おもちゃを作り、試し、更に改良する等の一連の活動を行う場と十分な時間を確保して、じっくり活動ができようにした。

研究仮設②

「SDGs」の探究を通して、自分たちに何ができるかを考える学習を行えば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> 近隣の保育園との交流活動

○保育園の児童を招待することにより、来校した園児みんなが楽しめるようにするために、自分たちはどのようにすればいいのかを意識させるようにした。

【SDGs12:つくる責任 つかう責任】

身の回りにあるペットボトルや食べ物の容器など、普段そのまま捨ててしまうものを再利用して、新しいおもちゃを作りだしていく。また、事後指導として、作ったものを処分することになった際には、分別するなどし、リサイクルしていくところまで指導していく。

【SDGs17:パートナーシップで目標を達成しよう】

地域の保育園の園児を「おもちゃフェスティバル」に招待し、楽しませてあげたり一緒に遊んだりしながら交流を図る。

6 本時の学習指導 (16 / 18時)

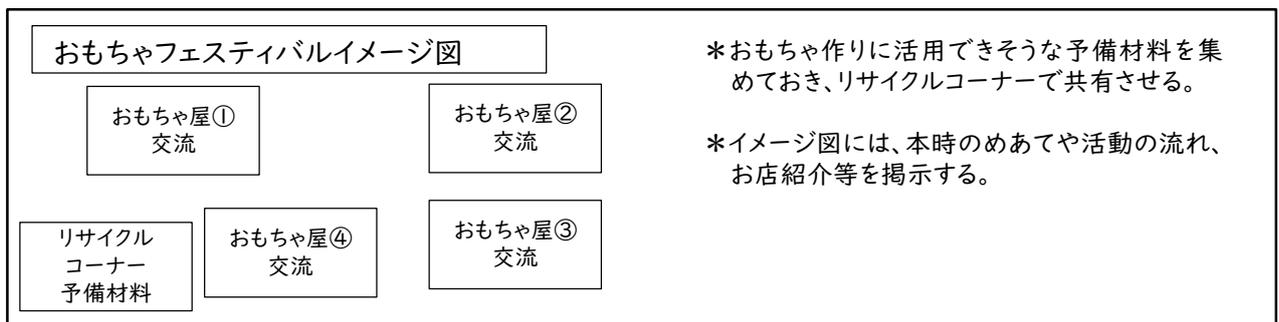
(1) 目標

- ・さまざまな遊び方を試しながら、みんなでより楽しく遊べるように遊び方を改良する中で、ルールや遊び方を工夫するとみんなが楽しく遊べるようになることに気付き、これからも遊びを創り出そうとすることができるようにする。

(2) 展開

児童の活動 ・児童の意識	●評価規準【観点】(方法) ○支援	時間
1 本時の活動を確認する。 ・はじめの会 ① はじめのことは ② 先生のおはなし (めあてのかくにん) ③ あそびのやくそく ・ぴよんぴよんきょうそう ・ペットボトルわなげげ ・うごくうごくおもちゃひろば ・ペットボトルボーリング 等	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「おもちゃフェスティバル」をみんなで楽しもう。 ～ 捨てるから、創るへ ～ </div> ○【捨てるから、創るへ】を確認し、「身近にある物を再利用して、おもちゃの作り方や遊び方を工夫し、みんなで楽しみながら遊びを創り出そう。」という、めあてを意識して活動させる。 ○活動の見通しを児童がもてるよう、「はじめの会」で遊び方や、ルール、保育園児との交流の仕方を確認させる。	5分
2 みんなで楽しみながら遊ぶ。 ・遊び方やルールを改良したり、遊び方を工夫したりする。 <前半> ・Aグループ…お客さん ・Bグループ…お店屋さん ・遊び方やルールの工夫があって面白いな。 ・お客さんが楽しんでくれて、うれしいな。 ・保育園のお友達も楽しんでくれてよかったな。 <後半> ・Aグループ…お店屋さん ・Bグループ…お客さん	○遊びの時間を二分し「遊ぶ側(お客さん)」「運営する側(お店屋さん)」を交替すること、保育園児は前後半共にお客さんであることを確認し、エスコートさせる。 ○試行錯誤して遊びを工夫させ、遊びの途中でも自由に改良できるように、リサイクル材料コーナーを設け使用させる。 ○「おもちゃフェスティバル」スタンプカードや掲示物を活用し、活動への興興味・関心・意欲を高めるようにさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ●身近な物を使ってみんなと遊びを創り出すことの面白さを実感し、これからも友達と一緒に遊びを創り出そうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】行動観察・作品分析) ・B規準に達した児童への手立て 保育園児にも分かりやすく楽しめるように工夫・改善できるころはないか考えるように促す。 ・B規準に達していない児童への手立て 活動が滞っている原因を一緒に考え、グループの児童と協働できるように促す。 </div>	35分
3 本時の活動を振り返る。 ・おわりの会 ① かんそうはっぴょう ② 先生のおはなし ③ おわりのことは	○本時のめあてに対する児童の気付き、頑張ったこと、工夫したこと等を振り返り、発表させる。	5分

(3) 備考 (環境構成図の例)



第3学年 総合的な学習の時間学習指導案



令和5年11月22日(水) 第5校時
場所 3年各教室
児童数 84名
指導者 教諭 1組
教諭 2組
教諭 3組

1 単元名 「すごいぞ!草加」(85時間)

2 単元の目標

自分たちが住む草加市について、歴史文化、自然環境、産業に関するものを調べたり、今後も草加市に残していきたいものを紹介したりする活動を通して、草加市に携わる人々や先人たちの思いや願いに気づき、持続可能なまちづくりについて考え、自分には何ができるかを見だし、自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

3 教材について

(1) 児童の実態

本学年の児童のSDGsに対する興味・関心は4月に比べて高くなっている。全校朝会ではSDGsに関する講話を興味深そうに聞き、森林資源や海洋ごみの問題に対して、「初めて知った」という意見が聞かれた。同時に、問題の深刻さに対する驚きや不安の表情が見られた。給食委員会の集会で給食の残滓が多くあることを知ると、「食糧不足が問題になっているからもったいない」という声があがり、なるべく残滓を減らそうと協力する様子が見られた。これらはSDGsのポスターや「SDGs17目標のおぼえうた」など、日頃からSDGsに関するものに触れる機会が増えたことが一因だと考えられる。しかし、児童一人ひとりの普段の生活の様子を見ると、問題に対する意識に個人差があったり、接点が見出しにくい目標に対する関心が低かったりと、全体で問題を共通理解することができていない現状である。

本単元の主題となる、持続可能なまちづくりへの興味・関心は薄く、普段何気なく生活している草加市について知っていることがあまりなく、草加市といえば「草加せんべい」というイメージしかもたない児童が多い。これは、草加市にある様々な魅力を自分の目で見たり、聞いたりする機会がなかったためと考えられる。自身が体験、発見することで隠れた魅力に気付くことができると予想される。

総合的な学習の時間は、児童にとって初めての学習であるが、調べ学習の時間が多いため、楽しいという児童が多い。しかし、タブレットが使えるから好きといった声も聞かれ、探求することを意識している児童は少ない。また、多くの児童は、調べたことから課題を見つけることが難しく、ひとつのことを調べ終わると、別のことを調べるといった様子が見られる。自ら課題を見つけ、深めていくという経験が少ないことが原因であると考えられる。

(2) 教材観

本教材では、児童が草加市について知っていることを想起し、今後も草加市に残していきたいものを紹介する。草加市の魅力を発見し、紹介していくことを通して、草加の魅力を支える人々や過去から現代まで大切に生きてきた先人たちの思いや願いがあることに気付かせたい。

児童の発達段階として、社会科では「学校のまわりの様子」において、学区内探検を行い、自分たちの住む地域にある施設や自然、歴史的な建造物を実際に見てまわる学習をする。身近にも今まで知らなかった魅力的なものがあるということに気付かせるようになっている。

本教材を扱うことで、身近にあるものに興味・関心を持ち、様々な草加市の魅力を発見し、今後も残していくために、自分には何ができるかを考え、自らの生活や行動に活かすことができることに気付かせたい。

(3) 指導観

単元を通して、学習過程が「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のサイクルになるように方向付ける。そのサイクルを探求的な学習における児童の学習の姿として位置づける。

「課題の設定」では、住んでいる地域の魅力を知らなかった状態から、もっと知りたいと意欲をもたせるために、実際に学区内探検をし、興味・関心を高め、自ら見て触れることで、もっと草加市の様々な魅力について詳しく調べたいという意欲を高める。

そして「情報の収集」で自分が発見した草加市の魅力について詳しく調べ、魅力を支える人々や先人たちの思いや願いに触れることで、持続可能なまちづくりに積極的に関わろうとする態度を育む。また、インターネットでの情報収集に加え、草加市の魅力を支える人々から話を積極的に聞く機会を設けることで調べ活動を活発化させる。

調べたことを「整理・分析」する活動を通して、発見した魅力が歴史文化、自然環境、産業のうち、どれに分類できるかを児童同士で話し合わせる。思考ツールを児童の情報整理や分析の手立てとして活用する。整理、分析したことをもとに児童同士でグルーピングを行い、誰一人として取り残さず活動できるようにする。

「まとめ・表現」では、自分たちの住む地域の知らなかった魅力に気付き、その魅力について相手に分かりやすく伝えるために表現方法を工夫し、主体的に地域に関わっていこうとする態度を育てる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①草加のよさや特色を理解している。 ②調べる計画を立てたり、インターネットや本で収集した情報を図や文章でまとめたりする方法が分かっている。	①草加について、疑問や好奇心から課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②草加の魅力を知らするために、手段を選択して情報を収集している。 ③収集した情報を取捨選択したり、関連付けたりして解決に向けて考えている。 ④身近な人々に草加の魅力を知らってもらうように、自分の考えを工夫して表現している。	①地域への愛着を深め、関わり方を考え、自らの生活に生かしていこうとしている。 ②友だちとの協働的な学習を通して、友だちとの考えを生かしながら草加の魅力を調べたり、まとめたりしようとしている。



5 単元の指導と評価の計画(85時間扱い)

		小单元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	主	評価方法
一次	課題の設定	学区内の魅力について話し合おう(6)	・オリエンテーション ・社会科の学校の周りの様子調べや知っていることをもとに学区内の特色を整理する。	①			ワークシート、発言内容
	情報の収集	学区内の魅力を調べよう(18)	・学区内にある史跡や歴史的建造物など瀬崎地区に古くからあるものについて調べる。 ・身近にある自然である河川の様子、昆虫や植物の観察を行う。 ・枝豆の栽培やせんべいの手焼き体験を行う。	②	②		ワークシート、行動観察
	整理・分析	草加の魅力について詳しく調べよう(20)	・草加宿や、歴史的建造物、古くから残っている伝統や祭りについて、本や資料、インターネットを活用して詳しく調べる。	②	②		ワークシート、行動観察
			・毛長川、伝右川周辺のフィールドワークや、昆虫や植物などの観察を行う。		②		ワークシート、行動観察
			・せんべいの手焼き体験をする。 ・皮製品工場を見学する。 ・枝豆を栽培する。		②		ワークシート、行動観察
		見つけた魅力を分類しよう(4)	・調べた情報について思考ツールを用いて整理し分類する。 ・整理、分類にあたっては、情報を取捨選択したり、関連付けたりしながら組みませる。		③		ワークシート、発言内容
まとめ・表現	見つけた草加の魅力をつたえよう(3)本時(1/3)	・今後も残していきたい草加市の魅力を相手に分かりやすく伝える。 ・発表を通じて、それぞれが見つけた魅力について共有する。		④		作成資料	
二次	情報の収集	地元や草加の魅力を支える人々の話を聞こう(17)	・神社や祭りの保存に関係する人の話を聞く。 ・伝統的産業である「草加せんべい」を守っている工場の人々の話を聞く。 ・環境保全に関わる人の話を聞く ・草加の魅力を支える人へのインタビュー活動を行う。		②		ワークシート、行動観察
	課題の設定	草加の魅力について考え話し合おう(4)	・魅力を支える人々の努力や先人が残してきた思いや願いに気付く。 ・草加の魅力を今後どのようにしていくかについて話し合う。		①		ワークシート、発言内容
	整理・分析	知ったことを整理し、これからのことを考えよう(7)	・魅力を支える人々や先人の思いや願いにふれたことをもとに自分たちに何ができるかを話し合う。			②	発言内容
	まとめ・表現	まとめて発信しよう(6)	・実際に自分にできることをやってみる。 ・児童の実態に合わせて、校内掲示や他学年への発表、地域の方やお世話になった方へビデオメッセージを送る。			①	作成資料

3年生

3年生

6 本校の研修との関連

研究主題

未来を創る「探究心」のある児童の育成～カリキュラムマネジメントを通じた「SDGs」の探究

目指す児童像

- ①自ら課題を発見し、課題解決に向けた粘り強い探究活動を通して、自分の考えを発信することができる児童(たくましい子)
- ②『誰一人取り残さない心』で、協同的な学びをして、自分も他人も大切にできる児童(心豊かな子)

研究仮設①

「探究的な学習」の学習方法を確立し、適切な「学習環境」があれば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> ポートフォリオの活用

○継続的に資料をファイルに蓄積することで、問題解決や探究の過程を自ら把握させ探究的な学習のサイクルを身に付けさせる。

<手立て②> 思考ツールの活用

○思考ツールを活用することで、調べた情報や実際に見たり聞いたりしたことの整理分析を明確化する思考スキルを身に付けさせる。

<手立て③> SDGs応援団、体験活動の活用

○ゲストティーチャーから話を聞く機会や体験活動を設けることで、児童の関心や意欲を喚起し、教員にはない専門知識や技能の習得を促す。

研究仮設②

「SDGs」の探究を通して、自分たちに何ができるかを考える学習を行えば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①>インタビューの活用

○草加市の魅力を支える人々から話を聞く機会を設けることで、魅力を支える人々には草加市に対する思いがあることを知り、自らも草加市を住み続ける町にしていくためにできることを考えたいという意欲をつけさせる。

【SDGs11:住み続けられるまちづくりを】

○草加市の魅力について調べる中で、伝統的産業を守る人々や環境保全に関わる人々が、住みやすい草加市にしていくために様々な工夫や努力をしていることに気付くことが予想される。そういった気付きから、自分たちが草加市の魅力をどうしていきたいか、そして実際に自分たちにできる取り組みを考えさせることで草加市の一因として住み続けられるまちづくりに関わる意識を育む。

7 本時の学習指導(一次 まとめ・表現 1/3時)

(1) 目標 これからも残していきたい草加市の魅力について、伝え方を工夫しながら相手に分かりやすく伝えることができる。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価規準(評価方法)	時間
<p>1 本時の課題を知る。</p> <p>2 発表の仕方を確認する。</p>	<p>○これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>これからも、のこしていきたい草加のみ力を伝えよう。</p> <p>○発表する際は、聞き手が理解しやすい声の大きさや速さ、資料の提示の仕方に気をつけさせる。また、聞き手は発表を聞く際に発表者が伝えたい草加の魅力が何かを捉えるように視点を与え、意欲的に参加できるようにする。</p>	5分
<p>3 グループごとに調べたことを発表する。 ・発表を聞くごとに、魅力を感じたことをメモにとる。</p> <p>4 魅力を感じたことを各グループで話し合う。 ・メモしたことをもとに、見つけた魅力をワークシートにまとめる。</p>	<p>○グループを前後半に分け、ワークショップ形式で各グループが発表を行うことを確認する。</p> <p>◆作成した資料を活用して、相手に分かりやすく魅力を伝えている。(行動観察) ・B規準に達していない児童への指導の手立て ○作成資料だけでなく、発表メモを参考にしながら、相手に分かりやすく伝えるように発表させる。 ○ワークシートには、各グループの発表を聞き、メモをとる。発表の内容から魅力的だと感じたことをワークシートに記入することを伝える。</p>	35分
<p>5 本時の振り返りを行う。 ・新たに見つけた草加の魅力について気付いたこと、活かしたいことについて振り返り、ポートフォリオとして書き溜めていく。</p>	<p>○本時の課題をもとに、自己の活動を振り返らせる。 ○次時では、本時で見つけた魅力を学級全体で共有し、草加の魅力ランキング表に整理していくことを伝え、意欲付けを行う。</p>	5分

(3) 板書

すごいぞ!草加!				
これからも、のこしていきたい草加のみ力をつたえよう。	各班の見つけた魅力まとめたワークシート	各班の見つけた魅力まとめたワークシート	各班の見つけた魅力まとめたワークシート	
発表するときのポイント	発表を聞くときポイント	各班の見つけた魅力まとめたワークシート	各班の見つけた魅力まとめたワークシート	各班の見つけた魅力まとめたワークシート

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案



令和5年11月22日(水)第5校時
場所 4年各教室
児童数 86名
指導者 教諭 1組
教諭 2組
教諭 3組

1 単元名「福祉って何?」(85時間)

2 単元の目標

福祉について、みんなが幸せになるための方法を理解し、広く福祉について考えるとともに、福祉を自分事として捉え、自分には何ができるかを見だし、発信する活動を通して、自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

3 単元について

(1) 教材について

本校は、核家族の家庭が多く、地域との繋がりが強い。地域を中心としたお祭りや行事等に参加する児童も多い。その中で、高齢者や年齢の近い友達等との関りが多い一方で、外国人や障がいのある人との関わりは少ない。そのため、福祉が児童の中で身近に感じられていない。福祉の学習を通して「福祉とは何か」「どのような人に必要なのか」ということについて考えることで身近にも福祉があることに気付かせ、自分にもできる福祉を実践させていきたい。また、福祉は弱者救済のイメージが強いが、本単元で目指す福祉の捉え方は、「誰一人取り残さない持続可能な社会」というものである。多面的に福祉を理解することで、自分事にできるように導いていきたい。

(2) 児童の実態

本学年の児童は、明るく素直で、人との関りが好きである。福祉については、4月の段階でほとんどの児童が「福祉とは何か」ということを知らなかった。そのため、国語辞典を使って福祉の言葉を調べ、「全ての人々が安心して暮らせる社会」ということを理解した。そこで、「福祉って何?」というテーマを掲げ、体験活動や調べ学習を通して福祉についての理解を深めてきた。1学期は、児童に分かりやすい身体障がいを中心に取上げた。体験活動では、アイマスク・白状体験、車いす体験、UDダンス体験を行い、図書館の福祉に関する本などから、自分の興味をもった課題を見つけ、個人の新聞にまとめた。2学期には、より視野を広げるために、身近にユニバーサルデザイン(※以下「UD」)を探す活動を行い、UD推進アドバイザーに来ていただき、UD講演会でUDとは何かということ学んだ。このことから、自分の興味のある身近な福祉についてグループで課題を設定し、調べ学習を行っている。そして、持続可能な福祉にするために来年福祉について学習をする3年生に向けて発表をする。

この学習を通して、福祉の大切さを知るとともに福祉が自分達を含めた社会問題であることに気づき、よりよい福祉の実現や、SDGsの達成に向けた課題解決方法を工夫し、相手や目的に応じてまとめたり表現したりできるようにすることを目指している。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 福祉についての現状や、福祉が自分たちの日常に密接に関わっていることを理解している。</p> <p>② インタビューやアンケート調査などによる調べ活動を目的や場面に応じた方法で実施している。</p> <p>③ 福祉に対する自らの認識の高まりは福祉と自分たちとの生活との関係を探的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>① 福祉について、疑問や好奇心から課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。</p> <p>② 課題を解決するために、手段を選択して情報収集している。</p> <p>③ 収集した情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連付けたり、焦点化しながら、解決に向けて考えている。</p> <p>④ 伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p>	<p>① 福祉に関心をもち、自分が今できることを考え、自分の生活を見つめ直そうとしている。</p> <p>② 自分の力でできる取り組みを考えたり、実行したりする中で得た知識や、友達の考え、福祉に関わる方々の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 課題解決に向けた自分の取り組みや状況を振り返り、持続可能な福祉の実現に向けて粘り強く取り組もうとしている。</p>

4
年
生

4
年
生

5 単元の指導と評価の計画(85時間扱い)

		小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	主	評価方法
一 次	設 定 の 課 題	福祉って何? (2)	・オリエンテーション ・福祉にはどんなものがあるのかについて知り、課題を設定する。			①	ワークシート
	収 集 情 報 の	福祉体験をしよう。 (4)	・車いす・アイマスク体験を行う。 ・UDダンス体験を行う。			①	ワークシート
	分 析 整 理 の	身体障がい者のための福祉新聞を作ろう (7)	・今まで体験したこと、調べたことを新聞にまとめる。		③		新聞
	ま と め 表 現	福祉について知ろう (2)	・友だちが作った新聞を読み合い、共有する。新しく知ったこと疑問に思ったことを基に今後の調べ学習に活用する。	③			行動観察



		小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	主	評価方法
二次	情報の収集	福祉について詳しく知ろう (2)	・身体障がい者のための福祉以外にもたくさんの福祉があることについて知る。 ・ユニバーサルデザイン推進アドバイザーの話を聞く。	①	①		ワークシート
	課題の設定	地域の福祉を探してみよう (8)	・グループごとに調べたい場所に行き、インタビューしたり写真を撮ったりすることで資料を集める。	②	②		行動観察
		みんなのための福祉について調べよう (11)	・本やインターネットを活用し、より詳しく知りたい福祉についてグループで調べる。		②		行動観察
		中間発表会をしよう (1)本時(1/1)	・みんなのための福祉について中間発表会をし、お互いの良いところを伝え合い、さらに詳しく福祉について知るために専門家の方からアドバイスを聞こう。	②	②		行動観察
	整理・分析	みんなのための福祉についての発表会資料を作ろう。 (10)	・今まで学習したこと調べたことをグループでまとめる。		③	②	作成資料
	まとめ・表現	みんなのための福祉について発表会をしよう (2)	・グループで調べたことを発表し合い、共有する。		④		ワークシート
		みんなのための福祉について、自分ができることを実践しよう (6)	・福祉を自分事して捉え、自分にはどんなことができるのか考え、実践する。	③	①	③	ワークシート
三次	課題の設定	持続可能福祉に向けて (2)	・世界と日本の福祉を調べ、今の日本に必要な福祉とは何かを考え、課題を設定する。			③	行動観察
	情報の収集	世界の福祉を調べよう (10)	・本やインターネットを活用し、自分の興味をもった世界の福祉を調べる。	①			行動観察
	整理・分析	ランキング表を用いて整理・分析する (1)	・世界の福祉についてランキング表を使い、思考を整理していくことで、日本の課題を見出す。		③		ワークシート
		スライドを使ってまとめる (5)	・今まで学習したこと調べたことをまとめる。		③		行動観察
	まとめ・表現	持続可能な福祉について発表会を行う (2)	・スライドにまとめたことを発表し、共有することで日本の福祉も持続可能な福祉にしていく意識を高める。		④		スライド

6 本校の研修との関連

研究主題

未来を創る「探究心」のある児童の育成～カリキュラムマネジメントを通じた「SDGs」の探究

目指す児童像

- ①自ら課題を発見し、課題解決に向けた粘り強い探究活動を通して、自分の考えを発信することができる児童(たくましい子)
- ②『誰一人取り残さない心』で、協同的な学びをして、自分も他人も大切にできる児童(心豊かな子)

研究仮説①

「探究的な学習」の学習方法を確立し、適切な「学習環境」があれば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> ポートフォリオの活用

○継続的に資料をファイルに蓄積することで、問題解決や探究の過程を自ら把握させ探究的な学習のサイクルを身に付けさせる。

<手立て②> 思考ツールの活用

○思考ツールを活用することで、調べた情報や実際に見たり聞いたりしたことの整理分析を明確化する思考スキルを身に付けさせる。

研究仮説②

「SDGs」の探究を通して、自分たちに何ができるかを考える学習を行えば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> UD講演会、体験活動の活用

○ゲストティーチャーから話を聞く機会や体験活動を設けることで、児童の関心や意欲を喚起し、教員にはない専門知識や技能の習得を促す。

<手立て②> PDCAサイクルの活用

○自分たちで計画したことを実行し、行動の評価・分析、改善のサイクルを行っていくことで、身近な福祉のために自分ができることを実現できるようにする。

【SDGs3:すべての人に健康と福祉を】

○児童は、福祉とは何かについて調べる中で、世の中や身近には困っている人々が多く存在し、福祉を必要としていることに気付くだろう。そういった気付きから福祉を自分事として考え、そして実際に自分たちにできる取り組みを実践していくことで、持続可能な福祉の実現を目指す。

【SDGs10:人や国の不平等をなくそう】

○日本は多くの物や教育などに恵まれており、安心して暮らせる家庭が多い。しかし、世界には食べ物や飲み水がなく、困っている人々も多くいる。1、2学期の身近な福祉の学習から世界の福祉に目を向けさせ、日本と世界の福祉を比較し、日本の福祉の良さや足りないところに気付かせていきたい。

7 本時の学習指導(47/85時)

(1) 目標 今まで学習したことを同じことを課題としている他のグループに向けて適切な方法で表現している。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価規準(評価方法)	時間
1 本時の課題を知る。	○これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	5
みんなのための福祉について中間発表会をし、お互いの良いところを伝え合い、さらに詳しく福祉について知るために専門家の方からアドバイスを聞こう。		
2 発表の仕方を確認する。	○発表する際は、聞き手が理解しやすい声の大きさや速さ、資料の提示の仕方に気をつけさせる。また、聞き手は発表を聞く際に発表者が伝えたいみんなのための福祉は何かを捉えるように視点を与え、意欲的に参加できるようにする。	25
3 グループごとに、今まで学習したことについて発表をする。	○各グループが順番に発表を行い、他の児童は発表グループの良さを見つけることを確認する。 ◆作成した資料を活用して、相手に分かりやすく学習したことを伝えている。【思考・判断・表現】(行動観察) ・B規準に達していない児童への指導の手立て ○作成資料だけでなく、発表メモを参考にしながら、相手に分かりやすく伝えるように発表させる。 ○調べていく上で分からないことや詳しく知りたいことを専門家のゲストティーチャーに質問し、より深い学びに繋げるようにする。	
4 ゲストティーチャーに福祉について詳しく知りたいことをアドバイスしてもらう。	○本時の課題をもとに、自己の活動を振り返らせる。 ○次時では、本時で見つけた他の福祉について学級全体で共有し、本発表への意欲付けを行う。	10
5 本時の振り返りを行う。 みんなのための福祉について気付いたこと、活かしたいことについて振り返り、ポートフォリオとして書き溜めていく。		5

4年生

4年生

(3) 板書

福祉って何？

みんなのための福祉について中間発表会をし、お互いの良いところを伝え合い、さらに詳しく福祉について知るために専門家の方からアドバイスを聞こう。

発表するときのポイント

発表を聞くときのポイント

質問をするときのポイント

プログラム

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案



令和5年11月22日(水) 第5校時
場所 5年各教室

児童数 指導者 教諭 1組
教諭 2組
教諭 3組

図工室
91名

1 単元名「地球に耳を傾けて」(79時間)

2 単元の目標

地球環境問題について、その原因、影響、対策を調べたり、よりよい環境をつくるために大切なことを発信したりする活動を通して、地球環境問題に取り組む人々の思いや願いに気づき、持続可能な地球の在り方について考え、自分には何ができるかを見だし、自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

3 単元について

(1) 教材について

本教材では、地球環境問題(以後、環境問題)を扱う。しかし、環境問題といっても幅広く、専門的な用語なども出てきて、ともすれば児童にとっては身近な題材ではなく、切実感を持ちづらい可能性がある。そのため、いかに児童に切実な思いを持たせて、探究的な学習をするかが重要であると考え。これまでの既習事項や経験から身の回りの環境問題について想起させたり、環境問題に関する教材を提示したりして、児童の問題意識を高めさせていきたい。また、SDGs 応援団(地域の人や専門家の人など)との交流を通して、より環境問題を身近に感じ、環境問題が自分たちの生活と関わっていて、行動することが世界や地域で起きている環境問題を解決するために大切なことであることに気付かせたい。

単元を通して、学習過程が「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の一連の探究サイクルとなっている。これを1度だけではなく、2度(場合によっては3度)回すことによって、子供たちの探究的な学びが深まり、環境問題を自分事として捉えて、自分たちの生活や社会に生かそうとする姿を期待したい。

1サイクル目の「課題の設定」では、はじめに4年生での総合的な学習の時間に行ったゴミ問題について振り返りを行い、さらに他の環境問題について調べていきたいという意識を向けさせる。また、現在起きている深刻な環境問題を動画などで提示することで、環境問題について何か考えなくてはならないという問題意識を持たせる。そして「情報の収集」では、それぞれが興味をもっている環境問題の原因や現状などについて図書資料やインターネットなどを活用して、調べていく。さらに調べた情報を「整理・分析」することを通して、同じテーマについて調べた児童同士で話し合わせる。その際、ICTを活用することで児童同士の情報の比較、関連付け、取舍選択といった活動を活発にさせる。「まとめ・表現」では、地球温暖化・森林伐採・絶滅危惧種・水質汚染など同じテーマで調べてきた児童同士が、中間発表として、他のグループへ発表する。その際に、弾力化した国語科の「みんなが過ごしやすい町へ」で習った単元の視点を取り入れて発表できるようにする。また、聞いている児童もただ聞くのではなく、同じ単元で習った「友達の報告はどんなところが分かりやすかったか。」という視点で聞き、感想や質問を発表させる。

2サイクル目の「課題の設定」では、1サイクル目で他のグループから寄せられた感想や質問をもとに、さらに調べていきたいこと、専門家にインタビューしたいことなど、課題を整理していく。また、保護者の方の知り合いである海外青年協力隊の方に協力いただき、地球の反対側であるボリビアの学校とオンラインで結び、交流を行う。その交流で出てきたボリビアの現状を知り、地球の反対側でも、日本と同じように環境問題に悩んでいたりと、対策をしていたりすることを知り、地球規模で環境問題が起こっていることを実感させて、さらに課題意識を高めさせていきたい。「情報の収集」では、図書資料、インターネットの情報だけではなく、SDGs 応援団(草加市役所環境課、地域の大学生、JICA、海外青年協力隊、保護者など)をはじめ、多くの外部人材へとインタビューをしたり、話し合ったりして、多岐にわたる情報を集めていきたい。「整理・分析」では、その集めた情報をもとに、環境問題への対策を考えて、さらには、自分でできることや地域で

5年生

5年生

できることまで考えを整理していく。「まとめ・表現」では、情報収集、整理・分析したことやSDGs応援団の方と交流をしたことをもとに、自分や社会にできることを考え、地域へ発信できるようにしていく。多くの人の意見を聞き、友達と切磋琢磨して協働する活動を通して、地球環境問題に取り組む人々の思いや願いに気づき、持続可能な地球の在り方について考え、自分には何ができるかを見だし、自らの生活や行動に活かすことができるようにしたい。

(2) 児童の実態

本学年の児童は、「総合的な学習の時間」について意欲的に学習に取り組む児童が多く見受けられる。これは、授業時数の弾力化により、自分の気になる課題に対して、図書資料やインターネットなどで多くの時間を使って調べることができたり、友達同士で話し合いの時間を多くとれたり、専門家の方々にインタビューできたりと、主体的・協働的に学習ができているからであると考えられる。一方で、意欲的に調べている児童は多いものの、それを実生活や実社会に役立てようとする姿勢までいっていない児童も見受けられる。SDGs応援団の方をはじめ、多くの人々と触れ合う中で、その思いや願いに気づき、環境問題への切実感をもたせて、自分事として捉えて、実生活、実社会に役立てようとする姿勢までいくようにしたい。

また、昨年度までのSDGsに関する様々な取り組みにより、SDGsへの興味・関心は高くなってきている。夏休みの課題では、環境問題の作文を書いたり、SDGs川柳を書いたりSDGsへの興味・関心の高まりを感じる。また、教室や廊下の電気をSDGsだからとこまめに消したり、手洗いの際にこまめに水を止めたり、食べ残しをなくそうと委員会活動で取り組んだり、自らSDGsのために行動する場面も見られるようになってきた。探究的な学習を通して、児童一人ひとりの実践的な資質・能力を育成していきたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①環境についての現状や、環境問題が自分たちの日常生活に密接に関わっていることを理解している。</p> <p>②インタビューやアンケート調査などによる調べ活動を目的や場面に応じた方法で実施している。</p> <p>③地球環境問題に対する自らの認識の高まりは環境問題と自分たちの生活との関係を探的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>①環境問題について、疑問や好奇心から課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。</p> <p>②課題を解決するために、手段を選択して情報を収集している。</p> <p>③収集した情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連付けたり、焦点化しながら、解決に向けて考えている。</p> <p>④伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p>	<p>①地球環境問題に関心を持ち、自分が今できることを考え、自分の生活を見つめなおそうしている。</p> <p>②地球環境問題への取り組みを考え、得た知識や友だちの考え、SDGs応援団の方々の考えなどを参考にしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③課題解決に向けた自分の取り組みや状況を振り返り、持続可能な地球の実現に向けて粘り強く取り組もうとしている。</p>

5年生

5年生



5 単元の指導と評価の計画(79時間扱い) ※6時間プログラミング

		小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	主	評価方法
一次	課題の設定	地球の声を聴いてみよう(5)	・オリエンテーション ・4年生での既習事項や現在起きている深刻な環境問題を動画などで提示することで、環境問題について何か考えなくてはならないという問題意識を持たせる。	①	①		ワークシート、発言内容
	情報の収集	現状と疑問をまとめよう(3)	・自分が知っている地球環境問題を整理し、些細な事でも疑問に感じたこと・調べたいことを出し合う。			①	発言内容
		地球環境問題について、情報を集めよう(20)	・疑問に思ったこと・調べたいことを図書資料やインターネットなどで情報収集を行う。		②	②	ワークシート、行動観察
	分析・整理	調べてきたことを整理し、友達と比べよう(5)	・各自が調べてきた環境問題について、同じテーマの児童同士で話し合い、ICTを活用して、情報の整理・分析を行う。		③		発言内容
	まとめ・表現	地球環境問題について、中間発表を行おう(2)	・同じテーマ同士の児童で協働してICTを活用して調べてきたことについて発表をする。 ・グループ同士で、感想や質問を行う。		④	②	作成資料
二次	課題の設定	地球の声をさらに聴いてみよう(4)	・他のグループからもらった感想や質問からさらに調べたいこと、専門家などにインタビューしたいことなど課題を整理する。 ・ボリビアに住む児童とオンライン交流を行い、地球規模で起こる環境問題について知り、さらに問題意識を高める。		①		発言内容
	情報の収集	現状の取り組みを調べよう(20) 本時(12/20)	・現状行われている環境問題に対する取り組みを図書資料やインターネットを活用して細かく調べる。 ・SDGs応援団の方に現在の取り組みについて話を聞く。 ・SDGs応援団の方に、質問やディスカッションを行う。	②	②		ワークシート 行動観察
	整理・分析	調べた情報を整理・分析し、これからのことを考えよう(15)	・調べた情報をICTなどを用いて整理・分析する。 ・整理・分析にあたっては、取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連付けたり、焦点化しながら、解決に向けて取り組ませる。		③		発言内容 行動観察
	まとめ・表現	「未来のために、わたしたちの声を届けよう」(5)	・課題解決に向けた自分の取り組みや状況を振り返らせる。 ・だれに、どんな目的のために発信するのか考える。 ・発信する相手に応じた発信方法を考えさせる。 ・発信を通して、課題をより身近に感じ、自らも活動できるようにする。	③	④	③	作成資料

5年生

5年生

6 本校の研修との関連

研究主題

未来を創る「探究心」のある児童の育成～カリキュラムマネジメントを通じた「SDGs」の探究

目指す児童像

- ①自ら課題を発見し、課題解決に向けた粘り強い探究活動を通して、自分の考えを発信することができる児童(たくましい子)
- ②『誰一人取り残さない心』で、協同的な学びをして、自分も他人も大切にできる児童(心豊かな子)

研究仮設①

「探究的な学習」の学習方法を確立し、適切な「学習環境」があれば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> ポートフォリオの活用

- 継続的に資料をファイルに蓄積することで、問題解決や探究の過程を自ら把握させ探究的な学習のサイクルを身に付けさせる。
- 振り返りの機会を設けることで、児童が思いや考えを整理したり、解決の見通しをもったりさせて、新たな課題に気付かせる

<手立て②> ICTの活用

- 考えることを支援するICTを活用することで、調べた情報や発表などで得た知識を関連付けたり、構造化したりする資質・能力を身に付けさせる。

<手立て③> SDGs応援団の活用

- SDGs応援団をはじめ、様々な立場の人から話を聞く機会を設けることで、児童の関心や意欲を喚起し、さらなる探究心を育てる。

研究仮設②

「SDGs」の探究を通して、自分たちに何ができるかを考える学習を行えば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> 掲示物の工夫

- SDGsのポスターを教室に掲示することで、各項目についていつでも目に触れることができるようにする。また、黒板にSDGsマグネットの掲示物を貼ることで、各教科の中でSDGsに関連するものが出てきたときに、すぐに関連する番号の掲示物を貼れるようにする。

<手立て②> 委員会活動の活用

- 「SDGs」の探究を通して、得た知識をもとに、委員会活動で実践的な取り組みを行っていく。環境委員会では緑化運動、給食委員会では食べ残しゼロ活動、放送委員会や新聞委員会ではSDGsの啓発活動など、学んだことを実生活に生かせるようにしていく。

【SDGs7:エネルギーをみんなに そしてクリーンに】

環境問題に対する取り組みを調べる中で、各市町村や企業が行っているエネルギー消費削減の施策に触れることが予想される。知識として蓄積するだけでなく、それらを参考にしながら自分たちが行うことのできる取り組みを考えさせることで社会の創り手としてエネルギー問題に向き合う意識を醸成する。

【SDGs13:気候変動に具体的な対策を】

気候変動について調べる中で、昨今の異常気象の現状に触れることが予想される。海外だけではなく日本でも気候変動が起こっていることに気づき、ゲリラ豪雨や気温上昇による外遊びの中止など、地球全体の問題が自分たちの身近な問題にもつながっていることを理解させる。国や企業の取り組みだけではなく、自分たちができる気候変動への具体的な対策を考えなくてはならないという危機意識を持たせる。

7 本時の学習指導(二次 情報の収集 14/20時)

(1) 目標 SDGs応援団を迎え、これまで情報収集してきたことをもとにディスカッションすることを通して、協働して課題解決に取り組もうとしている。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価規準(評価方法)	時間
1 本時の課題を知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 環境問題について、SDGs応援団の方を交えて、意見交流会をしよう。 </div>	1分
2 本時の流れを確認する。	○各テーマごとに分かれて、本時の流れを確認して、スムーズに進行が進むようにする。	2分
3 環境問題のテーマ別に分かれて、意見交流会を行う。 【意見交流会の流れ】 ・環境問題の各テーマ別で前後半(発表するチームと意見を伝えるチーム)に分かれて活動する。 ・前半チーム 15分 ・交代 3分 ・後半チーム 15分	○テーマごとに、これまで情報収集した内容をもとに発表を行わせる。国語の「固有種が教えてくれること」で習った「資料を用いた効果」を意識して発表できるようにする。 ○自分の意見を明確に伝えられるように、根拠となる理由や資料をもとに発表を行わせる。 ○実生活や実社会に生かしていくという視点を取り入れて、発表ができるようにしていく。 ○国語科の「よりよい学校生活のために」で習った、「自分の立場を明確にして」発表や意見を伝えることができるようにする。 ○SDGs応援団の方に、適宜小グループに入ってもらい、助言や意見をいただく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◆学習活動に即した評価規準(評価方法) これまで情報収集してきたことをもとに意見交流会をすることができる。(行動観察) ・B規準に達した児童への指導の手立て ○SDGs応援団の人に積極的に質問したり、助言を求めたりできるようにする。 ・B規準に達していない児童への指導の手立て ○発表の仕方について掲示物を見たり、自分の調べてきた情報をもとに発表ができたりするように助言する。 </div>	33分
4 SDGs応援団の方に、講評をいただく。	○SDGs応援団の方の講評を聞き、次回以降の情報収集にいかせるようにする。	5分
5 本時の振り返りを行う。	○本時の課題をもとに、自己の活動を振り返らせる。 ○めあてに沿って、しっかりと取り組めた児童を評価し、次の活動への意欲付けを行う。 ○やったこと、新たな発見、気づいたこと、活かしたいことについて振り返り、ポートフォリオとして書きためていく。	4分

第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

11 住み続けられる
まちづくりを



令和5年11月22日(水)第5校時

場所 6年各教室

児童数 6年94名

指導者 教諭 1組

教諭 2組

教諭 3組

1 単元名「共に考えよう!草加市の未来」(79時間)

2 単元の目標

自分たちが住む草加市の魅力や課題について調べたり、日本や世界の自治体の取組について環境・平和・文化・技術・観光・福祉の視点で調べて、整理・分析をする活動を通して、自分の住む草加市をさらに発展させていくためにはどうすればよいかを考え、提案できるようにする。

3 単元について

(1)教材について

本教材では、まちづくりを扱う。しかし、まちづくりと言っても幅広く、道路管理や防災設備などのハード面、歴史や観光文化のソフト面と多方面の分野で行われているため定義づけも難しい。ともすれば児童にとっては身近な題材ではなく、学びをすすめる必要感をもちづらい可能性がある。そのため、いかに児童に必要感をもたせて、探究的な学習をさせるかが重要であると考える。これまでの経験をもとに児童が草加市について興味をもつことができる内容を提示することで教材としての価値を高めていきたい。また、地域の人や民間団体の方など多くの人たちとの交流を通して、まちづくりをより身近に感じ、まちづくりが自分たちの生活と関わっていて、草加市の一員としてまちづくりに参加することが大切であることに気付かせたい。

単元を通して、学習過程が「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の一連の探究サイクルとなっている。これを1度だけではなく、2度、3度回すことによって、子供たちの探究的な学びが深まり、まちづくりを自分事として捉えて、自分たちの生活や社会に生かそうとする姿を期待したい。

1サイクル目の「課題設定」では、これまでに進めてきた環境問題についての実践を振り返り、結果を共有する。取り組んではみたものの環境問題の解決に至っていないことに気付かせ、個人やクラス単位での視点ではなく、県や市など大きな視点で考える必要があることに気付かせ、「情報の収集」では、それぞれが興味をもっている草加市の魅力や他市の魅力についてインターネットを活用して調べていく。さらに調べた情報を「整理・分析」することを通して、魅力ある他市では独自の取組が展開されている事に気付かせ、真似したい取組、やってみたい取組に期待を抱かせる。「まとめ・表現」では、草加市で実践してみたい取組について児童一人一人の理想を学級で発表していく。ここでは、実現可能かどうかは視野に入れずに児童が抱く理想のまちづくりを発表させる。一方で聞いている児童には、発表内容が実現可能かどうか、現状で似たような取組をしていないか等の視点をもたせる。そうして疑問に思った事や気付いた事を集約し新たな課題の発見へとつなげる。

6年生

6年生

2サイクル目の「課題設定」では、児童が考えた取組を草加市でも実現可能か、または似たような取組はないかなどと質問を投げかけることにより、草加市の現状の取組をもっと知りたいという意欲をもたせる。インターネットで調べる情報量に限界があることに気付かせ、さらに深い情報収集が必要なことを意識させる。「情報の収集」では、インターネットの活用に加えて、SDGs応援団（草加市役所、保護者、地域の方々など）をはじめ、多くの外部人材へとインタビューをしたり、フィールドワークをしたりと多岐にわたる情報を集めさせる。「整理・分析」では、集めた情報をもとに1サイクル目で調べた他市の取組と比較しながら草加市で足りていないと感じる取組や既に草加市で実践されている取組について話し合いをさせる。話し合いを進めながら草加市に提案した方がよいことについて焦点を当てていく。「まとめ・表現」では、草加市へ提案するための資料作りや提案の仕方を他教科の授業と関連させながら考えていく。弾力化した国語科「私たちにできること」からは、具体的な事実をもとにした提案文章の書き方を参考にし、発表原稿を考えさせる。また「みんなで楽しく過ごすために」からは、目的に応じた計画的な話し合いの進め方を参考にし、提案までに行うことを児童自らが話し合い、これからの活動への見通しをもたせる。そうしてまとめた提案内容を学年やSDGs応援団に中間発表として発表する。その際に、聞いている児童には、発表内容が実現可能かどうか、現状で似たような取組をしていないかなど、疑問的な視点をもたせる。そうすることでより効果的な資料を用意したいという意識をもたせる。

3サイクル目の「課題設定」では、中間発表について学年やSDGs応援団にもらった助言をもとに提案内容で再度検討していくべき事を意識させる。「情報の収集、整理・分析」では、効果的な提案にするための情報収集をしたり、提案資料への修正を加えたりしながら学年で交流するなど、作成した提案の分析をくり返す。そうすることで伝わりやすく実現可能な提案内容へと近づける。「まとめ・表現」では、草加市役所の方に来ていただき、調べてきたことや整理・分析してきたことをもとに提案を行う。ここでは、内容が伝わりやすい発表をこころがけるだけでなく、草加市の一員として思いをもっていることも伝わるようにすることを意識させる。まちづくりに取り組むSDGs応援団の思いや願いに気付き、それらを提案で伝えるだけでなく、行動にも移して持続可能な草加市の在り方について考え、自分には何ができるかを見いだしながら自らの生活を振り返ることができるようにしたい。

(2) 児童の実態

本学年の児童は「総合的な学習の時間」が好きという児童が多い。自分たちで設定した課題に対して自分たちで調べ学習をして自分たちでまとめるという一連のサイクルの見通しをもって進めることができる児童もおり、発表をした際には一人一人が達成感を得ることもできている。これは、時数の弾力化により、自分の気になる課題に対して、図書資料やインターネットなどで多くの時間を使って調べることができたり、友達同士で話し合いの時間を多くとれたり主体的・協働的に学習ができているからであると考えられる。しかし、調べていく中で自ら課題を見つけるといった探究的な学習のサイクルを作る意識はしているものの、実際にサイクルを作り出すことは難しく教師主導となって進める時間も少なくはない。また、調べ学習はインターネットで行うという意識が強く、インタビューやフィールドワークなど、多様な情報の収集方法に触れる経験が少ない。単元を進めていく中で調べたい情報を収集できなくなることが予想される。

本単元の主題となる、まちづくりへの興味・関心は低く、草加市の一員としての視点はもつことができていない。インタビューやフィールドワークを取り入れることで、まちづくりに携わっている人たちが身近にたくさんいることに気づき、自分たちも草加市のために行動を起こせるのではないかと意識をもたせる。そうすることで草加市の一員としてまちづくりへ参加する態度を養うことができると考えられる。

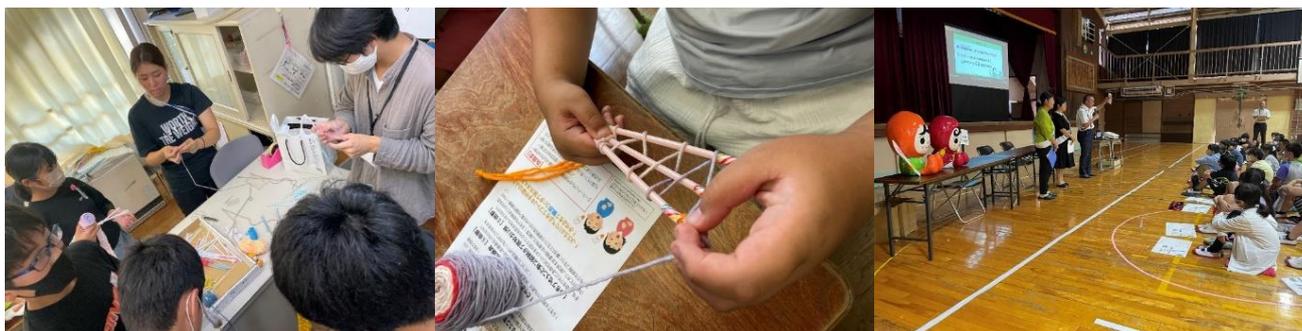
また、昨年度までのSDGsに関する様々な取り組みにより、SDGsへの興味・関心は高くなってきている。手洗いの際にこまめに水を止めたり、委員会活動で環境問題解決に取り組んだり、自らSDGsのために行動する場面も見られる。しかし、自然環境のみに囚われてしまい、福祉環境や設備環境など、SDGsを大きく捉えた視点は少ないと感じられる。「SDGs11:住み続けられるまちづくりを」にクローズアップした学習を通して、自分たちで草加市をより良くしていきたいという意識や思いをもたせ、視野を広げる活動へと進むことが期待できる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①草加市についての現状や、草加市の課題が自分たちの日常生活に密接に関わっていることを理解している。 ②インタビューやアンケート調査などによる調べ活動を目的や場面に応じた方法で実施している。 ③草加市の課題に対する自らの認識の高まりは自分たちの生活との関係を探的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①草加市の魅力や課題について、疑問や好奇心から課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②課題を解決するために、手段を選択して情報を収集している。 ③収集した情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連付けたり、焦点化しながら、解決に向けて考えている。 ④伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①草加市の課題に関心を持ち、自分が今できることを考え、自分の生活を見つめなおそうしている。 ②他市の取組を調べたり、関係者へインタビューしたりする中で得た知識や友だちの考えを活かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、よりよい草加市への実現に向けて粘り強く取り組もうとしている。

6年生

6年生



5 単元の指導と評価の計画(79時間扱い) ※6時間プログラミング

		小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	主	評価方法
一次	課題の設定	草加市の魅力と課題を考えよう(4)	・オリエンテーション ・自分たちが住んでいる草加市についての魅力を考える。その中で、出てくる疑問に着目させ、「草加市をよりよくするためにはどうすれば良いか。」という課題を設定させる。	①	①		ワークシート 発言内容
	情報の収集	草加市の魅力や他市の魅力調べよう(10)	・草加市の魅力や他市の魅力を調べていく。	②	②	②	発言内容 ワークシート 行動観察
	整理・分析	情報を整理し、実践してみたい取組を考えよう(5)	・草加市の魅力や他市の魅力についてスライドや紙などでまとめる。 ・草加市で真似したい取組、やってみたい取組を考えさせる。		③		発言内容
	まとめ・表現	まとめて、発信しよう(5)	・実践してみたい取組について学級で発表していく。 ・取組についての疑問や気付いたことを集約し、次につなげていく。		④		作成資料
二次	課題の設定	課題をつかもう(2)	・発表した取組が草加市でも実現可能かどうか、現状で似たような取組はないか話し合う。		①		発言内容
	情報の収集	現状の取り組みをさらに調べよう(15)	・調べる方法を考え、より正確により最新の情報にたどり着くようにする。 ・インターネットの情報のみだけでなく、SDGs応援団へのインタビューやオンライン交流、フィールドワークなどを行う。 ・情報が多くなるごとに整理・分析を行う。	②	②	②	ワークシート 行動観察
	整理・分析	調べた情報を整理・分析し、これからのことを考えよう(5)	・調べた情報を思考ツールを用いて整理・分析する。 ・草加市で足りていないと感じる取組やすでに実践されている取組について話し合い、提案した方がよい事について焦点を当てていく。		③		発言内容 行動観察
	まとめ・表現	まとめて、発信しよう(8) 本時(7/8)	・学年やSDGs応援団に、調べてきたことをもとに提案内容を発表する。 ※SDGs応援団		④	③	作成資料 行動観察
三次	課題の設定	課題をつかもう(2)	・学年やSDGs応援団からの助言を聞いて、提案内容を再度検討する。	①			行動観察
	整理・分析	提案に向けて、さらに情報を集め、整理・分析しよう(13)	・より効果的な提案にするための、情報収集をする。 ・集めた情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関連づけたりしながら、取り組ませる。		②		作成資料
	まとめ・表現	まとめて、発信しよう(10)	・草加市役所の方に来ていただき、調べてきたことをもとに提案する。 ※草加市役所 みんなのまちづくり課 ・提案した内容を全校児童に周知する。		④	③	作成資料

6 本校の研修との関連

研究主題

未来を創る「探究心」のある児童の育成～カリキュラムマネジメントを通じた「SDGs」の探究

目指す児童像

- ①自ら課題を発見し、課題解決に向けた粘り強い探究活動を通して、自分の考えを発信することができる児童(たくましい子)
- ②『誰一人取り残さない心』で、協同的な学びをして、自分も他人も大切にできる児童(心豊かな子)

研究仮設①

「探究的な学習」の学習方法を確立し、適切な「学習環境」があれば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> ポートフォリオの活用

- 継続的に資料や振り返りを総合ファイルやICT機器に蓄積することで、問題解決や探究の過程を自ら把握させ探究的な学習のサイクルを身に付けさせる。
- 振り返りの機会を設けることで、児童が思いや考えを整理したり、解決の見通しをもったりさせて、新たな課題に気付かせる

<手立て②> ICTの活用

- ICT機器を活用することで、グループで調べた情報を共有して蓄積し、得た知識を関連付けたり、構造化したりする資質・能力を身に付けさせる。
- オンラインインタビューの環境を整えることで、直接インタビューすることが難しい団体にもインタビューができるようにする。

<手立て③> SDGs応援団の活用

- まちづくりに関わる様々な立場の人から話を聞く機会を設けることで、児童の関心や意欲を喚起し、多様な視点からの知識や情報を得ることができるようになる。

<手立て④> フィールドワークの活用

- 実際にその場所に行き、自分の目で見ることで、草加市の現状をより深く知るとともに、児童の学習意欲を高めさせる。

研究仮設②

「SDGs」の探究を通して、自分たちに何ができるかを考える学習を行えば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> 他教科との関連

- 家庭科「クリーン大作戦」と関連させ、エコたわし作りに取り組ませる。エコたわしで水道掃除することを通して、洗剤の使用量を減らし、海の豊かさを守っていることに気付かせる。

【SDGs11:住み続けられるまちづくりを】

「過疎地」「限界集落」など、まちづくりに関連するキーワードをもとに、草加市の現状を調べる中で、様々な課題を見つけることが予想される。その課題を解決する方法はないか考えることを通じて、地域の一員であるという自覚をもち、自分たちで草加市をよりよくしていきたいという意識をもたせる。

7 本時の学習指導(53/79時)

(1)目標 学年やSDGs応援団に草加市への提案を見据えた提案内容を適切な方法で表現できる。

(2)展開

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価規準(評価方法)	時間
1 本時の課題を知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 提案内容をプレゼンし、より良い提案につなげよう。 </div>	5分
2 提案内容を発表する。 【発表の流れ】 ・グループの中で前後半に分かれ、発表する人と聞く人に分かれて活動する。 ○前半グループ(15分) ○交代、引継ぎ(5分) ○後半グループ(15分)	○多くのグループの発表を聞けるように、1グループ5分程度で発表できるようにする。 ○国語「聞いて、考えを深めよう」の学習を生かし、聞いている児童には、発表内容が実現可能かどうか、現状で似たような取組をしていないかなど、疑問的な視点をもちながら聞くように声をかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◆学習活動に即した評価規準(評価方法) 学年やSDGs応援団に自分たちの提案を分かりやすく伝えている。(行動観察) ・B規準に達した児童への指導の手立て 発表を聞いてくれた人に助言を求めるように声をかける。 ・B規準に達していない児童への指導の手立て ICT機器を指さしたり、声の大きさや速さを気にしながら発表したりするように声をかける。 </div>	35分
3 本時の振り返りを行う。 ・やったこと、新たな発見、気付いたこと、活かしたいことについて振り返り、ポートフォリオとして書きためていく。	○本時の課題をもとに、自己の活動を振り返らせる。 ○課題に沿って、しっかりと取り組めた児童を評価し、次の活動への意欲付けを行う。	5分

6年生

6年生



ひまわり学級1組 生活単元学習 学習指導案



令和5年11月22日(水) 第5校時
場 所 ひまわり1組
児童数 名
指導者 教諭

1 単元名 「紙をもう一度使える形に」

2 単元について

(1) 学級及び児童の実態

3年生以上の児童は、一学期の総合的な学習の時間にSDGsの11番「住み続けられるまちづくりを」12番「つくる責任つかう責任」や14番「海の豊かさを守ろう」に興味を持ち、身近な取り組みについて調べ、タブレットを使って自分の考えをまとめ、掲示物を作成した。今学期はより身近に、自分達ができることを考え、15番「陸の豊かさを守ろう」に関連して普段使う紙の再利用を行うことに話し合いの結果、決定した。

(2) 単元について

本単元では、集めた材料を使って製作を行うことを通して、自分たちで考え判断したり、表現したりする力を身につけさせたい。総合的な学習の時間を通して児童の関心が高まっているところで身の回りにある材料に目を向けて集めさせ、それを使って制作に取り組ませることで、意欲的に活動に取り組めると考える。また、制作物は2月から3月のプレゼントづくりで使うことを伝え、目的意識を持たせる。

(3) 指導・支援について

活動計画を掲示することで見通しを持って制作に取り組むことができるようにする。また、実態に応じて、事前にタブレットに保存した画像を参考に、どのような制作をするか考えさせる。自分たちに何ができるか調べ、選択させることで主体的に取り組めるようにする。児童同士の関わりをを広げ深めていくために、物の受け渡しを介して関わる場面を設定したり、教師が間に入って関わり方の仲立ちをしたりと、児童の実態に応じた支援をしていきたい。

3 本校の研修との関連

研究主題

未来を創る「探究心」のある児童の育成～カリキュラムマネジメントを通じた「SDGs」の探究

目指す児童像

- ①自ら課題を発見し、課題解決に向けた粘り強い探究活動を通して、自分の考えを発信することができる児童(たくましい子)
- ②『誰一人取り残さない心』で、協同的な学びをして、自分も他人も大切にできる児童(心豊かな子)

研究仮設①

「探究的な学習」の学習方法を確立し、適切な「学習環境」があれば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

〈手立て①〉グループでの活動

○グループで活動することで、困っていることを同じグループの人に相談したり、一緒に考えたりすることで一人ひとりの視野を広げ、協力して探求学習を進められるようにする。

〈手立て②〉課題を意識した振り返りの工夫

○毎回の授業において、自分たちのグループで調べたこと等を発表することで、その時間の課題と成果を自分自身で振り返られるようにする。

研究仮設②

「SDGs」の探究を通して、自分たちに何ができるかを考える学習を行えば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

〈手立て①〉掲示物の工夫

○SDGsのポスターを掲示することで、各項目についていつでも触れることができるようにする。また、黒板にマグネットの掲示物を貼ることで、授業の中で関連するものが出てきたときに、すぐに関連する番号の掲示物を貼れるようにする。

〈手立て②〉自分たちで考えたことを実践する

○社会情勢や生活状況など、様々な側面から自分たちに何ができるかを実際に実践させることで、SDGsの問題を自分のこととして捉え、どんな活動がSDGsにつながっているのか考える意識づけをする。

【SDGs17:パートナーシップで目標を達成しよう】

自分の興味のある目標について調べ、SDGsの目標を達成するために自分にできることを見つけ、実践しようという気持ちを育成する。

4 単元の目標

- (1)自分の活動内容や役割が分かり、友達と協力しながら制作に取り組もうとする。(知識・技能)
- (2)自分の考えを伝えたり、様々な具体策を考えたりすることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- (3)身近なものを使って何ができるか考え、実践しようとするすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

5 単元の指導計画(11時間扱い)

総合的な学習の時間「陸の豊かさを守るには」で森林伐採について学習。掲示物を作成。

生活単元学習「プレゼント作り」でプレゼントを作る。

過程	学習内容【5か条との関連】	ねらい	時間
I	生活の中でできることを考える。	・自分たちにできることを考えることができる。	3
I	紙を再利用して、紙バッグや封筒を作る。	・実践し、取り組みへの気持ちを高める。	1
II	紙を再利用して、工夫して、紙バッグや封筒を作る。	・さらにできることや工夫を考える。	4
III	プレゼントを包装する。	・作ったものを生かす。	2
IV	振り返りをする。	・活動を振り返り、実践する気持ちを高める。	1

総合的な学習の時間「海の豊かさを守るには」でプラスチック削減について学習。

6 本時の学習(5/11)

(1) 共通目標

- ①自分の活動内容や役割が分かり、制作に取り組むことができる。(知識・技能)
- ②自分の考えを伝えることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ③調べたことをもとに、制作することができる。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 児童の実態

非公開

(3) 個別の指導内容及び目標

非公開



(4) 展開

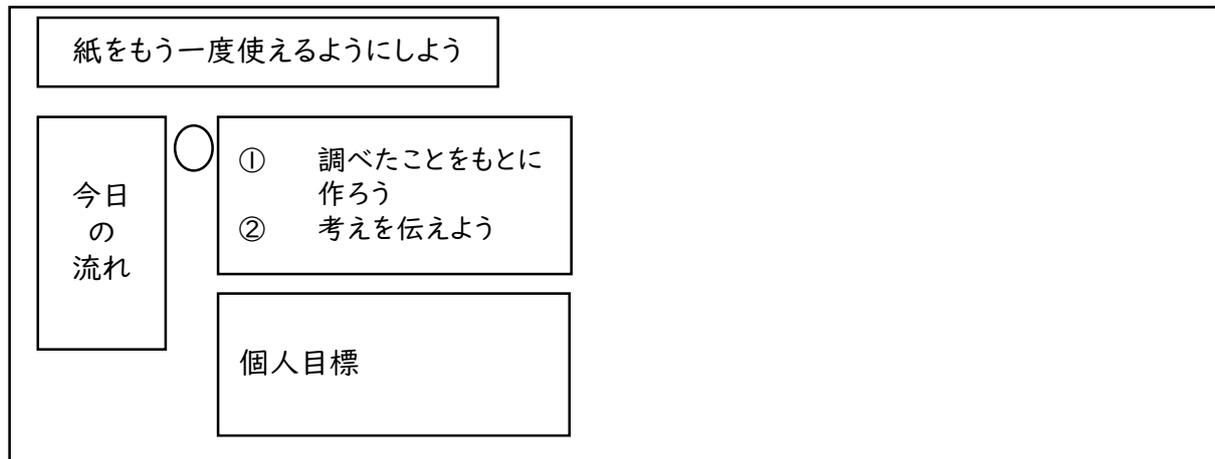
時間	学習活動	○児童(生徒)の活動 ◎予想される児童(生徒)の反応 □指導者の主な指示・発語等 ※支援の手だて ※評価の観点
3分	1 はじめのあいさつをする 2 本時の学習を知る	<input type="checkbox"/> 1時間の流れを確認します。 <input type="checkbox"/> 今日のめあては「①調べたことをもとに作ろう②考えを伝えよう」です。みなさんの今日頑張ることは何ですか。」 <input type="checkbox"/> 今日特に頑張ることを発表する。
37分	3 制作する	
		<input type="checkbox"/> グループごとに分かれて作りましょう。 <input type="checkbox"/> 制作に取り組む。※注目させてから話す。
<h1>非公開</h1>		
		<input type="checkbox"/> 同じものを作るか、他のグループに参加するか決めましょう。 <input type="checkbox"/> 友達と相談して次に何を作るか決める。
<h1>非公開</h1>		
5分	4 活動を振り返り、めあてが達成できたか確認する。 5 おわりのあいさつをする。	<input type="checkbox"/> 振り返りシートを用いて、めあてを達成できたか振り返る。 ※めあてとにこにこマークを確認する。 *協力して作り上げるよさを感じることができたか。

7 評価

共通目標に係る評価

- ① 自分の活動内容や役割が分かり、制作に取り組むことができたか。(知識・技能)
- ② 自分の考えを伝えることができたか。(思考力・判断力・表現力等)
- ③ 協力して作り上げるよさを感じることができたか。(学びに向かう力、人間性等)

8 教室内環境図(板書計画)



ひまわり学級3組 生活単元・総合的な学習の時間 学習指導案



令和5年11月22日(水) 第5校時
場所 ひまわり3組教室
児童数 名
指導者 教諭

1 単元名「SDGsについて みんなに 楽しんで 知ってもらおう」(45時間)

2 単元目標

- ・SDGsを学ぶ活動を通して、インターネット、図書、動画、ユニセフの資料を用いて調べたことを理解して使うことができる。(知識・技能)
- ・SDGsについて調べたことや考えたことを相手に伝えることやみんなに知ってもらおうための活動を行うことができる。(思考・判断・表現力)
- ・SDGsに対して高まった自分の思いや考えをよりよく伝えていこうと進んで行動し、自らもその行動を楽しんで行うことができる。(学びに向かう力、人間性)

3 単元について

(1) 学級及び児童の実態

総合的な学習の時間には意欲的な児童が多く、楽しく学習に取り組めることが多い。去年までの総合的な学習の時間では、1学期に「SDGs14 海の豊かさを守ろう」について学習した。そのことを通してプラスチックやビニール袋のゴミが海洋を汚染し、海の生き物達の命を奪っていることを知ることができた。しかし、プラスチックのゴミを減らし、海の生き物を守るために自分たちはどんなことができるのかという考えまでには至らなかった。そこで、「SDGsについて自分のできることを考えよう」という目標を立て、グループで学習し、多様な考えを出していくことで、自分達ができることについて考えを深めさせていき、三つの班に分かれ、ICTでまとめ発表した。また、学習の設定、研究、整理分析、まとめ、発表という総合的な学習の時間の探求プロセスを丁寧に学ぶことで、主体的な学びや問題解決力の素地を身に付けさせることができた。去年の学習を生かし、今年度は、去年、調べまとめて発表した中で、自分たちの生活とSDGsを関連付けながら、SDGsの活動を多くの人に知ってもらいたいと感じている児童が多かったため自分たちでめあてを設定させた。(「SDGsについて みんなに 楽しんで 知ってもらおう」)

めあてを設定することで、主体的に学び「探求心」のある児童への育成につながると考えた。SDGsを自分事と考え行動する力を身に付けさせたい。

(2) 単元について

本単元では、SDGsの課題について自分たちが興味をもったことについて調べ、どのような課題があり、どのように解決していくかを知ること、自分たちはその課題についてどのようなことができるのかということについて考えさせていきたい。

1学期の学習では、個人で調べたことをまとめる学習を行ってきた。そのため、どのように調べればよいのか分からず行き詰ってしまう児童もいた。そこで今回は、グループ活動にすることで、話し合いながら学習を進めるようにしていく。また、グループの中で役割分担を決めることで、話し合いや相談しやすい環境にしていきたい。そして、調べたことで、SDGsの活動を楽しく広めるさせるためには、どんなことができるか、自分には、どんなことができ、友達と協力できるかを考え形にする中で、達成感が味わえるようにする。

4単元の評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	OSDGsを学ぶ活動を通して、インターネット、図書、動画、ユニセフの資料を用いて調べたことを理解して使うことができたか。	OSDGsについて調べたことや考えたことを相手に伝えることやみんなに知ってもらうための活動を行うことができたか。	OSDGsに対して高まった自分の思いや考えをよりよく伝えていこうと進んで行動し、自らもその行動を楽しんで行うことができたか。

5 単元の指導と評価の計画(45時間扱い)

	時間	小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	主	評価方法
一次	5	1、SDGsについて知ろう。 (校長先生のSDGsに関する講話やSDGsの歌、教師による関連書の読み聞かせ、NHKの動画を使い「SDGsの学びの入門期」とし、SDGsを知り身近な問題として、自分事として考えられるように場の設定をする。) [総合的な学習の時間]	・SDGsについて、書籍や映像、ユニセフの教材を使い、調べ興味を持ったことについて話し合うことができる。	①		③	・発言内容 ・ワークシート
	1	2、SDGsの目標を達成するための課題や解決策について去年まとめた資料を振り返り、今年度の目標を立てよう 知る⇒みんなに知らせる・広める。 [総合的な学習の時間]	・クラスのこと協力しながら、みんなで話し合う。知った知識をより多くの人に知ってもらうにはどんな方法があるか考えることができる。		①		・発言内容
	1	3、自分たちで決めた単元目標の「SDGsについて みんなに楽しんで知ってもらおう」を達成するために、自分たちでできる内容を確認する。 [総合的な学習の時間]	・学習計画を立てる。 ① SDGsかるたを作ろう。 ② SDGsすごろくを作ろう。 ③ SDGsのポスターをつくろう。 ④ SDGsのクイズをつくろう。 ⑤ いらなくなった布、タオルを使って、ナプキンや雑巾をつくろう。 ⑥ 食品ロスについて給食の残飯を調べよう。 ⑦ 人や国の不平等をなくすために、パラリンピック種目のボッチャを楽しもう。 ⑧ エコキャップの活動を知り、キャップを使い造形遊びをしよう。			①	・発言内容



時間	小单元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	主	評価方法
二次	5	①SDGsかるたを作ろう。 [生活単元学習]			③	・発言内容 ・作品
	5	②SDGsすごろくを作ろう。 [生活単元学習]			③	・発言内容 ・作品
	3	③SDGsのポスターをつくろう。 [生活単元学習]			③	・発言内容 ・作品
	5	④SDGsのクイズをつくろう。 [生活単元学習]			③	・発言内容 ・作品
	5	⑤いらなくなった布、タオルを使って、 ナプキンや雑巾をつくろう。 [生活単元学習]			③	・発言内容 ・作品
	1	⑥食品ロスについて給食の残飯を調べよう。 [生活単元学習・家庭科]			③	・発言内容
	5	⑦人や国の不平等をなくすために、 パラリンピック種目のボッチャを楽しもう。 [総合的学習の時間・体育]			③	・活動の様子 ・態度
	4	⑧エコキャップの活動を知り、キャップを使い造形遊びをしよう。 [総合的学習の時間・図工]			③	・活動の様子 ・態度
三次	5	4、自分たちで作ったSDGsクイズやSDGsすごろく、SDGsかるたを楽しもう。 [総合的学習の時間・生活単元学習]		②	・活動の様子 ・態度 ・振り返りでの発表内容	

6 本校の研修との関連

研究主題

未来を創る「探究心」のある児童の育成～カリキュラムマネジメントを通じた「SDGs」の探究

目指す児童像

- ①自ら課題を発見し、課題解決に向けた粘り強い探究活動を通して、自分の考えを発信することができる児童(たくましい子)
- ②『誰一人取り残さない心』で、協同的な学びをして、自分も他人も大切にできる児童(心豊かな子)

研究仮設①

「探究的な学習」の学習方法を確立し、適切な「学習環境」があれば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> 映像や教師からの読み聞かせの活用。

○文章が読むことや書くことが苦手な児童がクラスの中に多数いる。そのため、視覚的に捉えるために、SDGsに関する映像活用や教師による関連図書の読み聞かせによって、苦手意識をもつことなく、学習に意欲的に参加できる環境を設定することで探究心のある児童を育成できると考える。また、文字で文章にする際も、ICTの活用やクラスの子と協力し意見を出し合い、みんなで一つずつ作り上げることで、活動に参加し、学習が、かるたやすごろく、エコ製品など形になることで、達成感と自己有用感が得られ、自信へと繋がると考える。

研究仮設②

「SDGs」の探究を通して、自分たちに何ができるかを考える学習を行えば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

<手立て①> めあてを自分達で考えさせ可能な目標設定の活用。

○自分たちに身近な問題を取り上げ、自分たちの生活とどうかかわっているのかを常に意識し、授業を展開していく。また、自分たちで単元を通しためあてを設定させる。ひまわり3組では、「SDGsについて みんなに 楽しんで 知ってもらおう」を目標に、楽しく知ってもらうために、自分たちも楽しく活動できる活動を考えた。(かるた・すごろく・クイズなど)日頃の生活や学校などで、経験した活動の中から目標設定をすることで探究心のある児童の育成へとつながると考える。

7 本時の学習(40/45時)

(1) 共通目標

- ・SDGsに対して高まった自分の思いや考えをよりよく伝えていこうと進んで行動し、自らもその行動を楽しんで行うことができる。(学びに向かう力、人間性)

(2) 児童の実態

No	学年	名前	本単元に関する児童の実態
<h1>非公開</h1>			

(3) 個別の指導内容及び目標

No	学年	名前	本単元に関する児童の実態
<h1>非公開</h1>			

(4) 展開

時間	学習活動	○児童(生徒)の活動 ◎予想される児童(生徒)の反応 □指導者の主な指示・発語等 ※支援の手だて *評価の観点
2分	1 はじめのあいさつをする	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○これまでのSDGsの取り組みを振り返る。 本単元である「SDGsについて みんなに 楽しんで 知ってもらおう」を全員で確認する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□1時間の流れを確認します。 □今日のめあては「SDGsについて みんなに知ってもらうために考えた、クイズ、かるた、すごろくを実際に楽しもう。」です</div>
3分	2 これまでのSDGsの取り組みを振り返る。	
5分	3 本時の学習を知る	
30分	4 グループで行う。	<p>○すごろく・かるた・クイズグループに分かれて活動する。 ※学習の進め方を説明する。説明を進めながら、ポイントとなる言葉を、視覚的に確認できるように掲示する。</p> <p>○今日の学習の流れを確認する。 ①SDGsについてクイズ大会。 ②SDGっすごろくとSDGsかるたをグループに分かれて行う。 ③活動の振り返りの発表をする。 ※友達の振り返りを聞き、自分の意見と比べながら聞くようにさせる。教師の話聞き、学習の振り返りをさせる。</p>
<h1 style="font-size: 100px; margin: 0;">非公開</h1>		
5分	5 本時の活動の振り返りを行う。 6 おわりのあいさつをする。	※友達の振り返りを聞き、自分の意見と比べながら聞くようにさせる。教師の話聞き、学習の振り返りをさせる。

8 評価

共通目標に係る評価

- ・SDGsに対して高まった自分の思いや考えをよりよく伝えていこうと進んで行動し、自らもその行動を楽しんで行うことができたか。(学びに向かう力、人間性)

9 教室内環境図(板書計画)

